

「予後」とは何か

——専門家と一般人の意味認識のずれ——

水落いづみ

要旨

医師が患者やその家族に病状について説明する際使われる「予後」という語は、素人に対して発せられる割には、専門家と一般人との理解が異なっている可能性の高い語である。国立国語研究所の報告でも、日常用語に言い換えて説明すべきとされている。医療従事者にとっては馴染みのある語であるとしても、一般人にとっては馴染みのない語であることを念頭に置いて用いるべきだと考えられる。

【キーワード】 専門用語 医療用語 医療従事者 医療者 予後

1. はじめに

(1) この病気は予後が悪いんです。

医師から言われたら、どのように理解するだろうか。

病状が悪化して救急外来に運ばれた母に関して医師からこう言われた時、筆者は治療で多少は持ち直すが、その後、病前の状態には戻らず、何らかの後遺症のようなものが残るというように理解した。コロナが5類になる⁽¹⁾前だったので、救急外来に長居するのもよくないのではと思い、一旦帰宅した。ところが帰宅するとほぼ同時に病院から電話があり、すぐ病院に戻るようにとのことであつた。昼過ぎに運ばれた母は、その夜に他界した。「やはり、高齢なので急変したのでしょうか。」と当直の医師に尋ねたところ、そもそも急速に悪化するような病気であつたようだった。その時、筆者の考えていた「予後」と医師が考えている「予後」の意味に大きなずれがあつたのだと気づいた。

また、同僚の家族が「予後」という用語を用いた医師からの説明を受けた後、「よごつて『余後』って書くんやろ。」と言っていたと聞いた。また、筆者の親族も母に関して「退院するけど、その後、悪くなるかもしれないんだと思っていた」と言っている。このように、素人が考える「予後」という語の意味は、医療従事者のそれとは「ずれ」があると考えられる。生命を左右される場面でのこの齟齬は問題が非常に大きいと言える。

本稿では、「予後」という語を通して、専門家と一般人の意味認識のずれとその問題点について探りたい。

2. 「予後」とは何か—辞書による意味記述

「予後」はどのような意味だと、一般的に捉えられているのだろう。辞書の記述から見ていきたい。表 1 に挙げたのは、6 種類の国語辞典の意味記述である。

表 1 辞書による「予後」の意味記述

	辞書名	版	出版年	意味記述
①	広辞苑 (岩波書店)	第 7 版	2018	[一] [医] (Prognose ドイツ) 罹病した場合、その病気のたどる経過についての医学上の見通し。 [二] 俗に、病後の経過。「—お大切に」
②	岩波国語辞典 (岩波書店)	第八版	2019	[一] [医学] 病気にかかった者について、その病気がたどる経過と結末に関する、医学上の見通し。 [二] 俗に、病後の経過。
③	新明解国語辞典 (三省堂)	第八版	2020	病気の治療後の経過。[原義は、病気の経過に関する医学上の見通し]
④	明鏡国語辞典 (大修館書店)	第三版	2020	[一] 病気・手術などの経過についての医学的な見通し。「—不良(=病気が回復する望みが少ないこと)」 [二] 病気が治ったあとの経過。
⑤	三省堂国語辞典 (三省堂)	第八版	2022	『医』 病気になっ(て治療をし)たあとの見通し。 「—不良 [= 今後は (かなり) 危険な状態]」
⑥	旺文社国語辞典 (旺文社)	第十二版	2023	[一] 『医』 病気の経過についての医学上の見通し。「治療の一」 [二] 『俗』 病後の経過。「—は良好だ」

6 件のうち 4 件が語義を二つとしている。共通して、第一義が医学用語または医学的なものであり、第二義は俗語、または医学的としていないものである。語義が一つだけのもののうち③は、医学的なものを原義としているが、ほかのものが俗語としているものを語義としている。⑤は医学用語のみを語義としている。

筆者の理解はまさしく俗語とされている語義である。④「病気が治ったあとの経過」とまで楽観していないが①、②、③、⑥の「病後の経過」と考えていた。しかし、医師が言った意味は⑤の「病気になっ(て治療をし)たあとの見通し。「—不良 [= 今後は (かなり) 危険な状態]」」だったのである。この意味の違いは非常に大きい。一方は、「病後」であるので病気は一応治っている。それに対して一方は病気が継続している状態でたどる経過である。病気が治っている状態は含まれていない。つまり、この語は、医学的な用語として使われる場合と俗語とでは、「病気である状態」と、「病気ではない状態」という全く逆を指しているのである。したがって、「予後」という語を使用する場合、相手がどちらの認識でいるのか細心の注意を払わなければならない語であると言える。

3. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』による調査

前章では辞書の意味記述から考えたが、実際に「予後」はどのように使用されているのかを見ることで、医療従事者だけでなく一般人が「予後」という語に触れる機会があるのか考えてみたい。そのため『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)でメディア、ジャンル別の出現件数をみた。その結果をまとめたものが表2である。

表2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「予後」のジャンル別使用件数と割合

	メディア/ジャンル	件数(件)	(%)
1	書籍/4 自然科学	241	73.03
2	書籍/9 文学	15	4.55
3	Yahoo!知恵袋/健康、美容とファッション/健康、病気、ダイエット	13	3.94
4	書籍/3 社会科学	11	3.33
5	Yahoo!ブログ/健康と医学/病気、症状	10	3.03
6	雑誌/厚生・医療/医学	9	2.73
7	Yahoo!知恵袋/ニュース、政治、国際情勢/政治、社会問題	4	1.21
8	雑誌/総合/一般	4	1.21
9	書籍/5 技術・工学	4	1.21
10	書籍/6 産業	3	0.91
11	Yahoo!知恵袋/健康、美容とファッション/メンタルヘルス	2	0.61
12	広報紙/関東地方/東京都	2	0.61
13	書籍/1 哲学	2	0.61
14	白書/安全	2	0.61
15	Yahoo!知恵袋/教養と学問、サイエンス/動物、植物、ペット	1	0.30
16	Yahoo!知恵袋/暮らしと生活ガイド/法律、消費者問題	1	0.30
17	広報紙/関東地方/群馬県	1	0.30
18	雑誌/教育・学芸/文学／芸術	1	0.30
19	書籍/7 芸術・美術	1	0.30
20	書籍/8 言語	1	0.30
21	白書/環境	1	0.30
22	白書/福祉	1	0.30

出現した総件数は330件であった。一番多いものは「書籍/4 自然科学」の241件で全体の73.03%を占め、次が「書籍/9 文学」の15件で4.55%、次に「Yahoo!知恵袋/健康、美容とファッション/健康、病気、ダイエット」の13件で3.94%、「書籍/3 社会科学」の11件3.33%、「Yahoo!ブログ/健康と医学/病気、症状」の10件3.03%、「雑誌/厚生・医療/医学」の9件2.73%と続く。「書籍/4 自然科学」で7割を占めるのだが、その内容もすべて医学関係の書籍である。例を挙げると以下ようになる。

- (1) 医療の進歩により**予後**のよい症例が増しているとはいえ、なお一般的には予後不良であるので、病児のケアと家族への支援には、十分な配慮が必要である。(平山宗宏(2002)『最新乳幼児保健指針』日本小児医事(出版社))
- (2) I型、II型を問わず、低酸素血症すなわちPaO₂の低下は、肺動脈圧の上昇をきたし、右心負荷を増し、右心不全が生じる。心不全は**予後**を左右する。(土居洋子(2005)『慢性疾患患者の看護』廣川書店)
- (3) 直ちに緊急手術が施された結果、一時小康を得られましたが、転移のある胃がんの**予後**は悪く、間もなく不帰の人となりました。(星野孝(1994)『がんはやっぱりストレスが原因だった』主婦と生活社)
- (4) ナーシングチェックポイント◎数多くの不整脈があるが、重要な(致死性)不整脈と、**予後**に直接関係する不整脈(多原性心室期収縮、心室頻拍、R on T、トルサード・ドポアンツなど)は見逃さないこと。(内山常男、河合千里、河合祥雄(2003)『心臓外科ナースの疾患別ケアハンドブック』メディカ出版)

また、「Yahoo!知恵袋/健康、美容とファッション/健康、病気、ダイエット」、「書籍/3 社会科学」、「Yahoo!ブログ/健康と医学/病気、症状」、「雑誌/厚生・医療/医学」何れも医学、医療関係の内容である。

それでは、全体の5%足らずではあるが、2番目に多い「書籍/9 文学」はどうだろうか。このジャンルでは「病後」の意で用いられている例が(5)から(11)の7件である。15件の半分近くが「病後」の意味であることから、一般的にはこの「俗語」の意味で使用されることも多いと考えられる。

- (5) 「伝染病患者として」よりは、腹膜炎を併発した盲腸手術の**予後**静養のため経堂病院に移されたのが実状のようだが、胸部疾患への脅えが太宰にはあり、そのための思い込みだったのだろう。(野原一夫(1989)『太宰治結婚と恋愛』新潮社)
- (6) 先生は眼底出血の**予後**にもかかわらず丁寧にお読み下さり、私をお宅へ呼んで、ここにはあなたのいいところが出ている、これは力作というより秀作です、と喜んで下すった。(倉科和夫、太田経子(2002)『藤沢周平全集』文藝春秋)
- (7) 同時に子宮癌が発見された。島に戻る前年に切除手術を受けたものの、**予後**は良くなかった。(小野不由美(2004)『黒祠の島』祥伝社)
- (8) 「脳に良い刺激を与えているほうが、**予後**は良いようです」「なるほど。要するに楽しむのが養生になるのですな」(帯木蓬生(2005)『エンブリオ』集英社)
- (9) 幸之助は相談役に引退ののち、風邪の**予後**がかんばしくなく、松下病院で入院生活を送っていた。(津本陽(2000)『不況もまた良し』幻冬舎)

(10) 突然何か大病して九死に一生を得、その**予後**に自分の肉体のいちじるしい衰弱を覚ったりする以外、そうした実感は年齢を重ねることで初めて、いわば人生に関する発見としてもたらされてくるものです。(石原慎太郎(2002)『老いてこそ人生』幻冬舎)

(11) 自動車のいる所に来ると、お前たちの中熱病の**予後**にある一人は、足の立たないために下女に脊負われて、――一人はよちよちと歩いて、――一番末の子は母上を苦しみ過ぎるだろうという祖父母たちの心遣いから連れて来られなかった――母上を見送りに出て来ていた。(有島武郎(2004)『小さき者へ;生れ出ずる悩み』岩波書店)

「病後」の意味では「書籍/3 社会科学」には(12)(13)の例が、「書籍/1 哲学」には(14)の例があった。

(12) 特別車に吉岡中将も肺炎の**予後**とて横たわれたままのって居られました。

(愛新覚羅浩(1995)『女の生き方』四〇選』文芸春秋)

(13) フランス大統領はヨーロッパ統合を生涯の使命と念じている先導者で、さきごろ手術をうけたばかりの**予後**にある。(藤村信(1995)『ヨーロッパ十字路』岩波書店)

(14) **予後**も順調だった恵子さんが、旅行から帰ってしばらくすると体調を崩した。乳ガンの再発だった。(鈴木忠雄(1995)『人生正午の鐘が鳴る』徳間書店)

以上からわかるように、「予後」の用例は医学、医療関係のものであり、「その病気がたどる経過と結末に関する、医学上の見通し」の意で使われている。一方、小説の中では、俗語の意味での用例も割合としては高い。また、全体の使用の割合としては医学的な用法が圧倒的だが、それらは専門家でなければそもそも目にすることがないものである。その点から、「予後」という語は、一般人にとって、触れることのない語であると考えられる。

4. 国立国語研究所の提案

「予後」の意味について、注意を払うべきは医療従事者なのか、一般人なのかであるが、前述したように「予後」が一般人にとって目にする機会のほとんどない語であるとするれば、医療従事者が病状について一般人である患者やその家族に「説明する」場合、一般人が触れたことのない「予後」という語は使わず、使用したとしてもほかの言い回しでの説明も加えるべきではないだろうか。

国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)では、この「予後」をはじめとする語について、その対応を提案している。

まず、「国立国語研究所が平成 16 年に実施した調査では、八割を超える国民が、医師が患者に対して行う説明の言葉の中に、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしい言葉があると回答してい」ること、「その理解を促すのはほかならぬ医療者⁽²⁾の責任」、「医療者は患者がよく理解できるように、分かりにくい言葉を分かりやすくする工夫を行う義務がある」としている。

患者に伝わらない原因を以下の 3 つに分類している。①「患者に言葉が知られていない」、②「患者の理解が不確か」、③「患者に理解を妨げる心理的負担がある」である。

「予後」については、「非医療者に対して、その言葉を「見たり聞いたりしたこと」があるかどうかを尋ねた質問項目で、見聞きが「ある」と回答した人の比率（認知率）」が80%未満のものとして①の「患者に言葉が知られていない」に分類している。それらの言葉をまとめたものが表3である。

表3 認知率が低い言葉（80%未満）

言葉	認知率 (%)	言葉	認知率 (%)
D I C	4.3	重篤	50.3
振戦	6.8	誤嚥	50.7
E B M	8.7	塞栓	51.2
クリニカルパス	8.9	予後	52.6
C O P D	10.2	統合失調症	53.0
集学的治療	10.4	ネフローゼ症候群	54.1
イレウス	12.5	緩和ケア	54.7
寛解	13.9	耐性	59.5
Q O L	15.9	P E T	61.0
日和見感染	21.5	対症療法	63.5
間質性肺炎	23.4	腫瘍マーカー	64.3
レシビエント	23.4	狭窄	65.0
エビデンス	23.6	コンプライアンス	65.3
せん妄	24.7	治験	68.6
H b A 1 c	27.2	敗血症	70.1
プライマリーケア	29.6	インフォームドコンセント	70.8
A D L	29.7	グループホーム	71.8
ターミナルケア	32.7	既往歴	73.2
M R S A	33.3	肺水腫	74.4
浸潤	41.4	川崎病	79.3
虚血性心疾患	42.3	抗生剤	79.3
クオリティーオブライフ	42.5		
生検	43.1		

そして、それらを「類型A 日常語で言い換える」に分類し「見聞きしても何のことだか分からない患者が多いので、できるだけ使わないようにしたい言葉」であり、「日常語を使って分かりやすく言い換えることが望まれ」としている。

国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)では、提案に取り上げる候補になる可能性のある言葉(20,000語余り)を抽出し、その中から言葉の選定リスト2,000語を選定した中から定量調査にかけた言葉100語を選定し、その中から類型を設定でき、詳しい工夫例を提案する言葉57語を選び記述している。その中に「予後」が選ばれているのである。

「予後」についての記述は以下のようになっている。短く説明する場合は「見通し」または「今後の病状についての医学的な見通し」と言い換え、少し詳しく説明する場合は「今後の病状についての医学的な見通しのことです。病気の進行具合、治療の効果、生存できる確率など、すべてを含めた見通しです。これから病気が良くなる可能性が高いか、悪くなる可能性が高いかの見通しを指す場合もあります」とするべきとしている。さ

らに「時間をかけてじっくりと」説明する場合は「今後の病状についての医学的な見通しのことです。治療を行った後に、病状がどのような経過をたどるのかを予測し、見通しを立てます。その判断材料には数々のものがありますので、必ずこうなるというものではなくある確かさを数値として表すことしかできません」としている。

認知率も低いことから「一般にはあまり知られておらず（認知率 52.6%）、漢字から意味を類推することも難しいので、患者に対しては別の言葉で説明したい。」としている。

『予後が良い』と言いたい場合は『これから病気が良くなる可能性が高い』、『予後が悪い』と言いたい場合は『これから病気が悪くなる可能性が高い』と言い換えるように勧めている。

また、「医師によって異なる意味に使われており、患者は混乱しやすい。伝える内容があいまいにならないようにするためにも、日常語で明解に言い換えることが望まれる。」としている。

筆者の場合も「この病気は予後が悪いんです」ではなく、「これから病気が悪くなる可能性が高い」と言われていたら、その後の行動も大きく変わっていたと思う。

十年以上前にこのような提案があるにもかかわらず、それが医療者に浸透していないのは非常に残念である。

5. 論文タイトルによる調査

なぜ国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)の提案にもかかわらず、一般人になじみのない「予後」が当然のように使用されているのだろうか。「予後」は一般人にとって触れることはないが医療者にとっては非常に「馴染み」のある語なのかもしれないと考えた。そこで、「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」のタイトル検索を基に考えてみたい。前掲の表 3 から認知率 50%台のものを選んで、タイトルの中に含まれている件数を見たところ以下ようになった。

表 4 認知率が低い言葉（50%台）の論文タイトルでの出現件数

言葉	認知率(%)	タイトル件数(件)
重篤	50.3	3,232
誤嚥	50.7	3,490
塞栓	51.2	20,371
予後	52.6	48,430
統合失調症	53.0	10,450
ネフローゼ症候群	54.1	3,492

「予後」の論文タイトルでの出現件数は「重篤」、「誤嚥」、「ネフローゼ症候群」の 10 倍以上、「塞栓」の 2 倍以上、「統合失調症」の 5 倍近くの数である。「予後」は「類型 A 日常語で言い換える」と分類される語の中でも、論文のタイトルになる頻度が非常に高い語である。したがって、「予後」は医療者にとって、非常にポピュラーで、また、研究のテーマでもよく取り上げられる、なじみのある語であると考えられる。この点で、一般人に全くなじみのない語であることを予想するのが難しいのではないだろうか。

6. まとめ

「予後」という語は、ネットで検索するとすぐ、用語の解説があらわれる。国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)の意図に沿って、説明がなされているのである。それらに接していると日本語の使用者は全員が「予後」という語の意味を医療者と同様に理解しているかのように感じられるかもしれない。しかしながら、これらに接するのは、落ち着いて改めて「予後」について調べた者のみである。そのような経験をする前の素人には「予後」の意味について知る機会はない。医療者は、このような語を誰もが知っている、医療者と同様に理解しているととらえるべきではないと考える。医療者は医療者同士で使う「病院の言葉」、ある病気との付き合いが長い患者に対して使う「病院の言葉」、そしてまだ、何も知らずにそこにいる患者、家族に対しての「病院の言葉」の違いに想像力を働かせてほしい。

謝辞

常に支えてくれ、また、本稿のきっかけを与えてくれた亡き母に感謝の意を表したいと思います。

注

- (1) 新型コロナウイルス感染症の位置づけは、2020年2月1日より「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」とされていたが、2023年5月8日から「5類感染症」になった。
- (2) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)では、医師、薬剤師、看護師など様々な分野や立場の医療関係の専門家を「医療者」と呼び、それ以外を「非医療者」としている。

参考文献

- (1) 池田和臣・山本真吾・山口明穂・和田利政(2023)『旺文社国語辞典[第十二版]』旺文社
- (2) 北原保雄(2020)『明鏡国語辞典(第三版)』大修館書店
- (3) 見坊豪紀、市川孝、飛田良文、山崎誠、飯間浩明、塩田雄大(2022)『三省堂国語辞典第八版』三省堂
- (4) 国立国語研究所(2009)「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) (<https://shonagon.ninjal.ac.jp>) (2024年4月15日取得)
- (5) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)「「病院の言葉」を分かりやすくする提案」国立国語研究所 (<https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/teian/pdf/index.html>)
- (6) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009b)『病院の言葉を分かりやすく一工夫の提案』勁草書房
- (7) 国立情報学研究所「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」(<https://ci.nii.ac.jp>)(2024年4月29日取得)
- (8) 新村出(2018)『広辞苑(第七版)』岩波書店
- (9) 西尾実、岩淵悦太郎、水谷静夫、柏野和佳子、星野和子、丸山直子(2019)『岩波国語辞典(第八版)』岩波書店
- (10) 山田忠雄、倉持保男、上野善道、山田明雄、井島正博、笹原宏之(2020)『新明解国語辞典(第八版)』三省堂

資料

国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009a)

10. 予^よ後^ご

まずこれだけは 見通し

今後の病状についての医学的な見通し

少し詳しく

「今後の病状についての医学的な見通しのことです。病気の進行具合、治療の効果、生存できる確率など、すべてを含めた見通しです。これから病気が良くなる可能性が高いか、悪くなる可能性が高いかの見通しを指す場合もあります」

時間をかけてじっくりと

「今後の病状についての医学的な見通しのことです。治療を行った後に、病状がどのような経過をたどるのかを予測し、見通しを立てます。その判断材料には数々のものがありますので、必ずこうなるというものではなくある確かさを数値として表すことしかできません」

言葉遣いのポイント

- (1) 「予後」という言葉は、一般にはあまり知られておらず（認知率 52.6%）、漢字から意味を類推することも難しいので、患者に対しては別の言葉で説明したい。**まずこれだけは**に記した表現などに言い換えたい。「予後が良い」と言いたい場合は「これから病気が良くなる可能性が高い」、「予後が悪い」と言いたい場合は「これから病気が悪くなる可能性が高い」などと言い換えると分かりやすい。
- (2) 下の **ここに注意(1)** に述べるように、「予後」は、医師によって異なる意味に使われており、患者は混乱しやすい。伝える内容があいまいにならないようにするためにも、日常語で明解に言い換えることが望まれる。

ここに注意

- (1) 「予後」という言葉を、医師は、病気の見通しという意味のほかに、余命の意味に限定して使う場合もある。例えば、「予後は六か月程度です」という言い方である。医師は、余命は六か月程度という意味で使う場合が多いだろうが、予後は見通しの意味であることを知っている患者でも、六か月程度で良くなる見通しなのか、六か月程度で亡くなる見通しなのかが分からず、大事なことが伝わらない危険性がある。大事なことがあいまいになってしまうように、注意しなければならない。
- (2) 余命の意味で「予後」を使うのには、「余命」という直接的な表現を避ける意図もあろう。しかし、上記のように大事なことが伝わらない場合は、婉曲 えんきよく表現は逆効果になることもある。「あとどれぐらい元気でいられるか」というと・・・」などのように言うことが考えられる。

患者はここが知りたい

病気について説明を受ける患者が、自分にとって最善の医療を選択するためには、病気の見通しを明確に理解することが極めて重要である。病気がこれからどうなっていくのか、良くなるのか、悪くなるのか、悪くなるとしたらどういう状態になるのか、といったことを具体的に説明する必要がある。